

恵庭市立
恵明中学校

学校だより
「漁川」
いざりがわ



校訓 「自己を愛しめ」

教育目標

- 自ら考え自ら学ぶ生徒
- 進んで活動し高め合う生徒
- 生命を大切にし、思いやりのある生徒

令和6年10月16日(水) 発行 No.4

令和6年度 後期及び第3節のスタートにあたり

校長 吉本 浩志

朝夕の肌寒さから、確実に秋の深まりを感じる季節となりましたが、今年度も折り返し地点を過ぎ、本日から後期及び第3節の教育活動が始まります。年度当初からの約半年間、保護者の皆様には、参観日や学校行事への来校、PTAの各種活動、図書ボランティア等において多大なるご支援をいただきましたことに改めて感謝申し上げます。

さて、本校では教育目標の実現を目指し、特に今年度は、子どもたちに「効果的な対話や協働を通して、自らを高め続けてほしい」という願いのもと、子どもたちが自己指導能力を育み、着実に自立していくことを目標として、日々の教育活動推進に注力しています。

先日の文化祭では、準備段階の取り組みの中で、「計画通りに作業が進まない」「同じ部門のメンバーが働いてくれない」「どうすればみんなが同じ気持ちで活動できるのか」等、少なからず課題もありました。しかしながら、その課題と向き合い、改善を図ろうと努力することで作品を完成に導き、当日は全ての学級が聴いている人の心を動かす素晴らしい合唱を発表してくれました。この経験を今後の日常に生かし、「自ら考え、自ら学ぼうとする子ども」「進んで活動し、仲間とともに高め合おうとする子ども」「自他を大切にし、思いやりのある子ども」の育成にONE TEAM 恵明であたっていく所存です。

様々な経験を積み、時にはまわり道をしながらも着実に成長を遂げている子どもたちに、後期始業式の中で以下のような話をしました。

今日から後期、そして第3節が始まります。ぜひ、自分を高めるチャンスの第3節にしてほしいです。そのため、「目標を立てて挑戦すること」「うまくいかない時にどうすればよいか自分で考えてみること」「あきらめない心と粘り強さをもつこと」を大切にしてください。挑戦には失敗がつきものです。もしかするとうまくいかない時の方が多いかもしれません。でもポジティブに考えると、失敗は挑戦している証であり、挑戦しなければ成功する可能性は0%になってしまいます。

「私は何度も何度も失敗した。それが、私が成功した理由だ」

「何かを始めるのは怖いことではない。怖いのは何も始めないことだ」

これは、「バスケットの神様」と言われたマイケル・ジョーダン選手が、引退の時に述べていた言葉です。試合に出ることはおろか、ベンチに入ることすらできなかった少年時代。試合に出ても自分のミスが原因で敗北を味わうことになった試合の数々。そんな苦しい時期もあった彼が、粘り強く、ひたむきに努力し続けた結果、スーパースターへと変貌を遂げるのです。

第3節は約2か月半、登校日数にして50日足らずです。目標を立て、その実現に向けて、まずはやってみることで。また、学ぶ形態には、個人での学び、集団での学びがあります。集団での学びには、他者の考えを聞いて、見方・考え方を広げることができるというよさがあります。それを最大限生かすためにも、学びの目的とルールを理解し、仲間とともに高め合える環境づくりを行うことは大切です。令和6年を終える頃に、また一つ成長した皆さんの姿を見ることができるよう期待しています。

変化の激しい未来社会を子どもたちは生きていきます。国連が「地球上の誰一人も取り残さない」ことを理念としてSDGsを提唱しているように、日本の教育界でも「誰一人取り残すことなく、全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを実現する」ことを大きな目標に掲げています。

私たちはそれを踏まえ、①全ての子どもの資質・能力を高めるための授業づくり、②支持的風土があり、絆づくりを大切にする集団づくり、③子どもや保護者の心に寄り添う相談活動の推進、さらには、④自己指導能力の育成に、引き続き取り組んでいきます。そして、それが本校教育目標の実現につながるよう努めます。

保護者・地域の皆様には、変わらぬご理解・ご支援を賜りますようお願いし、後期及び第3節スタートにあたっての挨拶といたします。

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果より (恵明中のようす)

4月に全国の3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果と今後の取り組み等についてお知らせいたします。本年度は、国語・数学・生徒質問紙が実施されました。本校の状況は下に記載いたしました。分析したうえで、今後の教育活動に生かしていきたいと考えています。

恵明中のこれまでの取組

学習指導では、昨年度に引き続き対話的な学びを充実させ、思考力・判断力・表現力を高める授業を重視するとともに、習熟度別少人数指導やチーム・ティーチング、タブレット端末によるICT機器の活用やAIドリル「スマイルネクスト」の取り組み等、一人ひとりが意欲的に学習に取り組めるよう指導を進めています。また、道徳や総合的な学習、行事などの時間では、生徒の自主的・主体的な取組を促し、所属感や成就感を高めるとともに、自己の生き方を考えさせる指導を行ってきました。

恵明中の「学力」の状況

国語……○全国平均と、ほぼ同程度の結果でした

＜知識及び技能＞ 全国平均とほぼ同程度

- ◎「言葉の特徴や使い方」の事項は、全国平均をやや上回りました。
- 「情報の扱い方」の事項は、全国平均とほぼ同程度でした。
- 「言語文化」の事項は、全国平均とほぼ同程度でした。

＜思考、判断、表現＞ 全国平均とほぼ同程度

- △「話すこと・聞くこと」の領域は、全国平均をやや下回りました。
- △「書くこと」の領域は全国平均をやや下回りました。
- 「読むこと」の領域は全国平均とほぼ同程度でした。

数学……○全国平均と、ほぼ同程度の結果でした

＜知識及び技能＞ 全国平均をやや上回る

＜思考、判断、表現＞ 全国平均とほぼ同程度

【領域別】

- 「数と式」の領域は、全国平均とほぼ同程度でした。
- ◎「図形」の領域は、全国平均をやや上回りました。
- 「関数」の領域は、全国平均とほぼ同程度でした。
- 「データの活用」の領域は、全国平均とほぼ同程度でした。

その結果

恵明中の「学習など」の状況

「生徒質問」の回答集計結果から、肯定的な回答が全国平均を上回った内容項目も見られました。一方で、課題と見られる回答もありました。

【全国平均を上回った項目】

- ・自分にはよいところがあると思う
- ・先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う
- ・朝食を毎朝食べている／毎日決まった時刻に寝起きしている
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う
- ・授業でPCやタブレットを利用している
- ・道徳の授業で、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりしている
- ・先生は、理解していないところなどを分かるまで教えてくれている

【課題】

- ・「将来の夢や目標を持っている」と答えた生徒の割合が少ない
- ・「不安等があるときに大人に相談できる」と答えた生徒の割合が少ない
- ・学校の授業以外の1日当りの学習時間が、全国と比べ相当数少ない
- ・平日にテレビゲームやスマホでのSNSや動画視聴を3時間以上している生徒が多い

今年度の調査結果をふまえて

<ICT 機器に関わって>

①タブレット端末と学習環境での活用

今回の調査の『1,2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか』の質問に対し、「ほぼ毎日」「週に3回以上」と答えた割合が非常に高く、本校でのタブレット使用頻度が高いことが分かりました。ただ、一方で、ICT機器を使用した学習に関わる質問に対して、『自分のペースで理解しながら学習を進めることができる』『自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる』『友達と協力しながら学習を進めることができる』などに対する肯定的な回答は、全国に比べると低い結果が出ました。

本校は、授業の中でICT機器を使用した場面は多くあるもの、その活用の仕方が個別の学習理解や、生徒相互の意見交流に上手く反映できていないということが分かりました。ICT機器を使って、学習内容のより深い理解を進めることが現在の本校の課題の一つだといえます。

②スマホの扱いをめぐって

平日のテレビゲームやスマホなどによるSNS・動画視聴の傾向を見ると、「4時間以上」と答えた生徒が一定数存在し、全国と比べても高い割合が示されました。逆に、「1時間以下、全くしない」と答えた生徒も全国よりも高い割合でした。

このことから本校での使用状況は両極端に分かれ、各家庭によってテレビゲーム・スマホ等の考え方に大きな違いがあるといえます。

③家庭学習時間

学校以外での平日1日あたりの学習時間の回答に対して、本校は道内・全国に比べても学習時間がとても少ない状況であることが見えてきました。また、土日などの休日でもその傾向は変わらず、「全くしない」という割合はとても高いです。

<対話を重視した授業へ>

昨年度より、本校では対話を重視した授業改革に取り組んでいます。各教科においても対話の場面が授業の随所に織り込まれるよう進めているところです。本校では「対話」を、自分の考えと他者の考えを交流し相互の考えを認め合う、というように位置づけています。ただ、『学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる』との質問に対し「あてはまる」と答えた割合は全校と同程度だったものの、割合としては高くはない結果でした。この点についても、本校の課題の一つといえます。

子供たちの更なる成長のために

学校で取り組んでいくこと

(1) 学校では、授業改善等を通し、子どもたちの資質・能力の育成に努めます

- 学習習慣の確立に向け、落ち着いて学習できる環境を整え、より分かりやすい授業を目指します。
- 全ての教科での対話的な活動を一層充実させ、思考力・判断力・表現力の育成を図ります。
- 各教科等の指導の中では、特に「振り返り」の活動を充実させ、主体的な学びと自己の成長を実感できるよう促します。
- 定期テストの計画表の作成等で自立した学習の取組を支援します。
- 日頃の家庭学習の声かけやAIドリル「スマイルネクスト」の活用を推進します。

(2) 学校では教育活動を通して子どもたちの居場所をつくり、絆づくりに努めます。

- 先生と子ども、子ども同士の良好なコミュニケーションづくりを進めます。
- 日常の活動や学校行事の中で、自他を大切にすることを育みます。

ご家庭にご協力いただきたいこと

生活習慣や学習習慣は、ご家庭の協力がなければ確立できません。子どもたちの学力向上や健やかな成長には、基本的な生活習慣の定着が深く関係します。

- テレビゲームやSNS使用については、各家庭において適切なルールを決めるなど、過度な使用にはならないような声かけをお願いします。
- スマホ等の使い方について、トラブル防止の視点も含め、家庭内でルールを決めるなど適切な使用についての話し合いをお願いします。
- 家庭学習では、その日に学んだことを振り返り、反復練習したり、予習したりするなど、自分で計画を立てて学習を進められるようにご指導をお願いします。